



海の生き物観察力向上講座 開催しました！



- 日時 平成30年7月22日(日) 9:00~12:00
- 会場 観音寺市有明海岸
- 講師 吉田 一代 氏 (香川の水辺を考える会 代表)

7月22日(日)、観音寺市の有明海岸にて、海の生き物観察力向上講座が行われ、19名が受講しました。座学とフィールドワークにて、海浜植物の宝庫である有明海岸に生息する多くの草花について学びました。



最初に行われた座学では、海岸付近に存在する植物の分類や特徴について解説がありました。海水や潮風などは植物にとって厳しい環境のため、一般的な植物と違い葉は厚く固く、根は水分を得るため地下茎をもち地面に沿って長く育つなど、海浜植物は環境に即した進化をして生きていると説明がありました。

有明海岸にも多く生息している「ハマゴウ」は、葉や実から大変良い香りがする植物です。ハマゴウから落ちた実を使用して、「香り袋」を作りました。実を袋に入れて揉むと良い香りがして、部屋などに置き、比較的長期間、香りを楽しむことができます。





座学の後には、有明浜に向かい、実際に生息している植物を観察しました。よく見られる植物とは異なり、背が低く、地面を這うように成長している植物が多いことが分かりました。水が得にくい環境のために、膨大に種を作って生存の確率を上げる個体や、地下茎を広範囲に広げていって成長するものなど、海浜で生きる植物はいろいろな工夫が進化の中でされていることを実際に見て感じました。



コウボウムギ



ネコノシタ (上) ・ハマゴウ (右下)

黄色い花をつけているネコノシタは、葉を触ると猫の舌のようにザラザラしていることから名前がつけられたそうです。また、ハマゴウは葉を揉むといい香りがします。どちらの葉も普通の草花と違い、保水のため厚みがありしっかりしていました。

講師からはさらに観察の手法や、他の人に紹介や解説する際の工夫についても話がありました。自然の植物という特徴から時期的に見られない植物は写真パネルを用意したり、開花期間の短い植物を見逃さないよう、こまめにフィールドに通って観察する方法について話がありました。



大変暑い中でのフィールドワークでしたが、受講者の皆さんは熱心に観察に取り組んでいました。